

和歌山県有田市

箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見 / 子どもまちづくりワークショップ



【地域の基礎データ】

人口：26,027 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：34.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農業（みかん）、漁業（太刀魚）、工業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：8 名（1 回生：2 名、2 回生：4 名、
3 回生：1 名、4 回生：1 名）

活動期間：平成 29 年 6 月～

担当教員：永瀬節治

1. 活動実施の経緯

有田市箕島地区では、平成 29 年度より有田市社会福祉協議会や箕島地区の地域活動団体である「ワンハート」と連携しながら、多世代交流を通じた地域活性化に向けた活動に取り組んでいる。令和 2 年度からはコロナ禍により現地での活動が制約される中で、地域の子供たちから大人までが交流できるような企画としてオンライン音楽会に取り組むなど、内容を工夫しながら実施できる活動を進めてきた。

2. 活動の内容

前期には、昨年度に学生たちが提案し、ワンハートとともに取り組んできた折り鶴モザイクアートの制作を進め、完成した作品は 7 月に有田市立病院に設置することができた。


加えて、社会福祉協議会との連携により、第 3 次有田市地域福祉活動計画の策定に向けて課題や取り組みを共有するための「まちづくりワークショップ」の運営に関わった。コロナ禍の影響によりオンラインでの開催となったが、9 月と 10 月の 2 日間行われ、当日は地元の中学生から高齢の方まで 15 名が参加した。学生たちは事前に行政計画等を読み込んで把握した地域課題の発表や、冒頭のアイスブレイク、参加者の意見の記録などを担当した。

2 月上旬には、市内の高校生や地域の取り組みと LIP の活動について共有しながら交流を図る「異世代活動報告会」がオンラインで開催（収録）され、学生たちは LIP の活動報告に加え、全体の司会も担当した。動画は社会福祉協議会の Web サイトで公開されている。


3. 活動を通じて

まちづくりワークショップを終えた学生たちは、その経験も踏まえながら、今後 3 年間の箕島 LIP のアクションプランを自主的に検討し、地域での交流促進を図るための具体的な目標を設定した。来年度も同プランに基づき、引き続きワンハートや社会福祉協議会等の地域の方々と連携しながら、多世代交流を推進するための実践活動を進める予定である。

4. 成果物（ポスター）



箕島 LIP



箕島LIPとは？

箕島は和歌山県有田市の地区の1つです。有田市は和歌山県西北部に位置し、人口は約3万人です。有数のみかん産地で、みかん鶏や太刀魚、しらすなども特産品です。

箕島LIPは箕島地区を中心に、**有田市社会福祉協議会**と商店会・商工会議所が中心のまちづくり団体「ワンハート」の2つの受入先と協働して活動しています。

2021年度活動テーマ

箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見 / まちづくりワークショップ

まちづくりワークショップ

このワークショップは『第3次有田市地域福祉活動計画』の策定過程の1つとして、有田市社会福祉協議会主催で行われました。**多世代の住民**で有田市について話し合い、住民主体で有田市をより良くするためには**何ができるかを考える**ことが目的です。9月と10月に2日間の日程で開催され、中学生から高齢の方まで15名がオンラインで参加されました。

その中でLIPの学生は、行政資料から読み取った**有田市の課題についての発表、アイスプレイクの運営、話し合いの書記**などを担当しました。

ワークショップの最後には参加者・学生の一人ひとりがアクションプランを発表し、自分には何ができるかを考える機会になりました。



1 少子高齢化	2 地域
<ul style="list-style-type: none"> ○少子化：人口減少 ○高齢化：地域コミュニティ（組織）の危機 ○高齢者一人世帯の増加、介護者の負担軽減のために地域が必要とされることは何か →地域で支える環境づくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理・運営・企業との連携による「共創」「公創」の取組が強い ○担い手の確保、育成ができていない ○所得向上の必要性 ○危機感が強まっているのではないか ○例）遊学館への協働的な参加はできているのか
3 情報発信	4 地域のつながり
<ul style="list-style-type: none"> ○発信する情報が地域に行き渡らない ○イベントが知られることなく終わる事例を多く見られる →どうすればいいか ○オンライン活動の継続、イベント本来の意味が伝わりづらい →イベント感覚で楽しんで終了 →緊急活動の継続、担い手不足を引き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に集える場所がある ○しかし ・情報が集まっていけない ・情報が行き渡らず参加者が集まらない →地域のつながりの再強化 ○地域から集まる方が集まらなくなってしまう

箕島LIPアクションプラン

ワークショップを経て箕島LIPが3年後に目指すまちの姿と、その実現のために取り組むことを考えました。

○長期目標〈3年後の年度終了時〉

会話をすることや深くつながっていくことを**交流**とし、一度できたつながりが継続されていて別の場所であった時に気軽に話しかけられる状態を目指す

○1年目：**情報受信** - インターネット講習会

○2・3年目：**多世代交流** - 交流の実態調査、多世代交流の機会創出、効果検証

ワンハートとの協働

昨年度、箕島LIPから「**折り鶴モザイクアート**」を提案し、今年度はその制作を行いました。

7月には完成品を有田市立病院へ設置することができました。



活動の反省点・改善点

①リハーサルについて
実践的な練習やトラブルの想定、継続メンバーからのアドバイスが不足していたことで本番で臨機応変な対応ができませんでした。今後は、余裕のあるスケジュール管理とともに全員でトラブルの対応策を考え、共有することに努めます。

②ワークショップ後の振り返りについて
振り返りではそれぞれの求める完成度の違いから**反省点を引き出せないこと**や**反省点を次に活かせないこと**がありました。今後は、事前に細かな行動目標を決め全員の足並みを揃え、**反省を対策まで落とし込み**次に繋げることに努めます。

③メンバー間の情報共有について
会議欠席者への対応が不十分であることから内容が伝わりきらないことがありました。今後は、会議冒頭に前回の振り返りを行い、また気軽に質問し合えるよう**LINEの活用方法**を見直すことに努めます。